
岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 長瀬 信

学校住所 (岡本校舎) 高山市下岡本町2000-30 電話 0577-32-5320
(山田校舎) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成21年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第1回)

2 会議の構成

委員	足立加代子	石油販売会社役員 飛騨高山高校同窓会常任理事
	塩屋 節次	高山市青少年育成市民会議会長 岐阜県青少年育成推進指導員
	阪下 六代	弁護士
	中田 弘幸	農業 (岐阜県指導農業士)、J Aひだ理事
	山下 芳枝	女性農業経営アドバイザー
学校側	長瀬 信	校長
	小見山輝明	副校長 (全日制山田校舎)
	坂本 茂幸	副校長 (定時制・通信制)
	原 勉	事務部長
	高橋 博美	教頭 (全日制岡本校舎)
	田中 洋二	教頭 (全日制岡本校舎)
	林 博康	教頭 (全日制山田校舎)
	大澤 正孝	教頭 (定時制)
	廣澤 正彦	教頭 (通信制)
	村田 和宏	教諭 (全日制岡本校舎・教務主任)

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成21年7月7日 (火) 10:00~12:00
岐阜県立飛騨高山高等学校 (岡本校舎) において、委員5名と学校側10名が出席して開催した。

5 会議の概要

会議 I	開会挨拶 (小見山副校長)	進行 (田中教頭)
	自己紹介	
	学校の概要説明 (長瀬校長)	
授業見学	岡本校舎・全日制の3時限目	
会議 II	授業見学の感想・学校への意見・ご要望等	
	閉会挨拶 (坂本副校長)	

(1) 学校の概要説明

平成17年度に統合して今年で5年目となる。旧高山高校、旧斐太農林高校、それに斐太高校にあった通信制課程を移管し飛騨高山高校になった。分校という形ではなく校舎が2つあり、全日制、定時制、通信制の3つの課程をもつ高校は、おそらく都道府県立では本校のみである。本校はこのように全国的にも大変珍しい学校であり、さらに全日制においても普通科だけでなく、農業科（園芸科学科、生物生産科、環境科学科）、商業科（情報処理科、ビジネス科）、生活産業科（生活文化科）があり、いろいろな勉強ができる学校である。そのなかにあって、この春には生活文化科が1クラス増えて、現在、全日制の1年生では岡本校舎が6クラス、山田校舎が3クラス、計9クラスとなり、県内では最大規模の学校となった。現在の生徒数は、全日制が978人、今年1クラス増えてこの人数であり、3年後にはプラス80人になるので、最大1,080人となる。定時制は59人、通信制は116人、あわせると1,150人規模の学校である。

学校運営については、第一に、統合時に定めた校訓「快活」「友愛」「創造」を具現化することに努めている。「快活」については、両校舎一緒になって取り組んでいる部活動を活性化していくことに力を入れている。なかでもハンドボール部は9年連続県総体優勝を果たし、今年もインターハイに出場する。統合して本当に部活動が盛んになったが、一層の活性化を図りたい。「友愛」については、生徒会活動やホームルーム活動、各種ボランティア活動などのいわゆる特別活動に積極的に関わっていく生徒を育てていきたいと考えている。幸い全日制課程にとどまらず定時制や通信制においても生徒会活動は活発であり、警察と連携したMSリーダーズ活動においても、今年は登録生徒数が本校だけで200人を越えた。自分のことだけでなく、いろいろな活動に参加しようという生徒が出てきている。「創造」については、3課程それぞれの特色を打ち出して、さらに全日制についてはそれぞれの学科の特色を活かしながら生徒の進路実現や成長を図るような教育活動を展開しようと努めている。また、「1つの学校」であるということを学校運営のキーワードと考えている。2校舎3課程がばらばらに動いていたのでは統合のメリットは何も生まれない。これを強みにしていくために職員が「1つの学校」であることを念頭に、「1つの方向」に向かっていくことが大切だと考える。これまで全日制では両校舎の生徒が一斉に集まる機会が少なかったが、これを徐々に増やしてきている。卒業式はもちろんだが、7月の芸術鑑賞会前に地区総体の壮行会を行ったり、昨年度からこれまで学科ごとに実施していた学習成果発表会を全校生徒が参加して1月末に高山市民文化会館で行った。今年度はさらに4月早々に部紹介、生徒会入会式、対面式も一緒に行った。できる限り生徒も一緒になって活動できる機会を多く作るように努めている。

第二に、積極的な学校開放ということである。本会の委員の皆さんから授業等の様子を見ていただき、助言をいただくことも学校開放のひとつであるし、学校でのいろいろな活動を地域に発信していくことも重視している。そのひとつのツールとしてマスコミなどに情報を提供し、新聞などに取り上げていただいている。新聞等で生徒の活動が紹介されることは生徒の自信にもつながっているので、積極的なPR活動を展開している。学校は生徒が主役である。いろいろな部分で生徒が活躍できる場をつくることを念頭に置きながら学校運営を進めている。昨年度は、農業科の生徒が農業高校生の甲子園ともいわれる農業クラブの全国大会で、本校開校以来初めて最優秀賞を獲得し、県民栄誉賞を受賞した。商業科では全商検定8種目中3種目以上1級を取得した生徒の割合は本校が県内でトップであり、合格率は88%であった。なかでも情報処理科の生徒は入学した40人全員が3種目以上1級合格を果たすという快挙を成し遂げた。これは全国でも初めてではないかと思われる。生活文化科においても福祉機器のアイデアコンテストで全国で最優秀賞を受賞した。定時制においても、最近特に授業に向かう姿勢が驚くほど良くなっている。授業に真剣に向かっている姿は、数字にはあらわれないが、大きく変わってきたことである。

(2) 授業見学 (岡本校舎・全日制の3限)

授業見学の内容

- ・普通科 コース別少人数指導の授業等 (国語・地歴・理科・英語)
- ・商業科 コンピュータを利用した授業等 (情報処理・課題研究)
- ・生活文化科 コース別少人数指導の実習等 (調理・被服・介護)

(3) 授業参観の感想および学校へのご要望・ご意見等

- 意見1 思ったよりおとなしいという印象を持った。授業内容が昔と全く違うなど感じた。選択授業については、かなり少人数でも実施するのか。
- 学校側 基本的には生徒優先であり、科目によってはかなり少人数でも授業は実施している。例えば2つの科目の選択授業であってもほぼ同数になるような調整は行わない。
- 意見2 率直な感想は、皆さん真摯に取り組んでいるということ。どのクラスもそれぞれ科目は異なるが、一所懸命やっていた。また、話しかけても明るい生徒が多い。
- 意見3 今日是我々が参観しているから落ち着いた雰囲気です。授業が進められているのかと疑いたくなるくらい静粛で秩序正しく授業が行われていた。だからといって管理されているというのではなく、教室には穏やかな空気が流れており、きっといつもこんなふうに授業が行われていると感じた。しかし、座学の授業については、生徒がどのくらい予習し積極的に授業に取り組んでいるのかについて、やや物足りなさを感じた。全体的に授業への取り組みが受け身的に感じる。
- 学校側 授業の雰囲気は普段どおり。決して着飾ったものではない。授業への取り組みはむしろ定時制の方が意欲的かもしれない。昨年度の生徒の授業評価アンケートの結果からも家庭での学習時間が非常に少ないことがうかがえる。まだまだ予習しなさいという声だけでできる生徒は少ない。宿題などを与えて家庭学習の習慣化を図るのが課題だと感じている。
- 意見4 階段の踊り場のコーナーに花が飾ってあったり、色紙が掲示してあり、落ち着いた雰囲気を感じた。クラスによって携帯電話についてのことが板書してあったが、持ってくることにについてはやむをえないと思う。その使用の仕方についてはどのように指導しているのか。また、家庭学習については、部活動等で熱心に活動し疲れ果てておりなかなか難しい生徒もいるとは思いますが、多少なりとも家庭で取り組める宿題程度は必要だと思う。各学年ごとに雰囲気が違うように感じられたのも興味深い。
- 学校側 山田校舎は自ら栽培した花などで校舎を飾っているが、つい先日まで岡本校舎玄関にも山田校舎の生徒が栽培しディスプレイした西洋紫陽花が置いてあった。校内美化は両校舎とも進めている。また携帯電話については、緊急の連絡が必要な場合や部活動で遅くなり迎えに来ていただく必要がある場合などもあるため持ち込みについての制限はしていない。だからといって携帯電話が授業中に鳴ったりすることはない。また、休み時間にメールを送信したり、遊びの道具として使うことまで許可しているわけではなく、生徒が拡大解釈をして休み時間にまで使用しているようであればそれはきちんと指導していく。あくまでも携帯電話は連絡の道具として許可している。
- 意見5 公衆電話がなくなってきており、遠距離通学や部活動で遅くなった生徒のエマージェンシーのために携帯電話は必要である。だからダメだというのではなく、持っているからこそ、翻弄されない、左右されない生活習慣を身につけさせることが大切ではないか。また、情報処理科の生徒にとっては携帯電話自体が実学で必要なツールとな

る。携帯電話は必要不可欠でつきあっていかなければならないのだから高校レベルでは生活指導として、携帯電話の奴隷にならない指導が必要だと思うがいかがなものか。

学校側 面と向かっては話ができないが電話なら話せるとか、電話はできないがメールならできるなどということが言われるが、それにはコミュニケーションの問題が関係している。冒頭にホームルーム活動を活発にしようと考えていると言ったが、人と人が議論を戦わせたり、さまざまな話し合いができる力をつけてやるのが大切だと思う。もっと根本部分から生徒の力をつけさせてやるためには、コミュニケーションができる力をつけさせることが大切であり、そのためにも特別活動を充実させていきたいと考えている。

意見6 全体的に生徒たちは皆一所懸命に取り組んでいるように見えた。コンピュータの授業では40名を1名の教員が担当していることが気になった。分かる生徒はいいが、分からない生徒への対応が十分にできないように思われる。複数教員が受け持つようにはできないか。

学校側 コンピュータの授業は、本来複数教員で担当しているが、本日急にペアの教員が病気で休んだため、やむを得ず一人で担当していた。普段は複数で担当している。

意見7 MSリーダーズの活動は非行防止が中心だが、これだけたくさんの生徒が登録しているのであれば、マナーだけでなく、スピリッツの面で働きかけるような取り組みはできないだろうか。

学校側 残念ながら定時制にはMSリーダーズの組織はない。ただし、MSリーダーズではないが、現在、在校生が新入生や転入生などに助言をしたりしている雰囲気は感じている。また、不登校の生徒に関しては友だちが積極的に関わる事がよい場合もあればそうでない場合もあり、担任だけでなく関係者が集まって最も適した対応をとるようにしている。本校には専門医による巡回相談もあり、そちらからの対応もしている。

意見8 現在、全日制は9クラスあるが、少子化の影響もあり、今後学科の見直し等を行っていく予定はあるのか。また、ぎふ清流国体に向けての取り組みはどうなっているか。

学校側 国体については、現在の中3、中2が中心になると思われるが、本校においてはハンドボール部とスキー部が県の強化指定校となっており、先日もハンドボール部の生徒は全日本チームの監督にも指導していただいた。ちなみに文化系では太鼓部、書道部が強化指定を受けている。次に学級数の件については、飛騨地区の小学1年生までの児童生徒数の推移は多少の増減はあるもののほぼ横ばいである。本年度は本校が1クラス増ではあるが、同地区内の他校が1クラス減であることから地区全体では増減ゼロである。今後もクラス増に対応できる魅力ある学校づくりを進めていきたい。

意見9 先日の全国非行防止月間の啓発活動に生徒が熱心に活動してくれていた。また、高山市民憲章の花いっぱい運動についても苗づくりなどに協力してもらっている。こうした活動が市民にいい影響を与えている。大変感謝している。さらに、岐阜市から来られた方が、地下道があるところでは、生徒が国道を横断することなく地下道をしっかり利用していることや見ず知らずの自分に対しても明るく挨拶してくれることに大変感激しておられたのでお伝えする。今後ますますいい学校になるよう期待している。

6 会議のまとめ

今年度の評議員の会議は、第1回目として学校の概要説明の後、岡本校舎の全日制授業を見学し、生徒の様子を見ていただいた。見学後、各委員から授業の感想をいただくとともにそれに対するご意見・ご要望をいただいた。

この会で得た貴重な意見や要望については、これからの学校運営や、開かれた学校づくりにぜひ生かしていきたい。また、今後も評議員の方々のご意見を参考に、さらに魅力ある学校づくりに努めていきたい。

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 長瀬 信

学校住所 (岡本校舎) 高山市下岡本町 2000-30 電話 0577-32-5320
(山田校舎) 高山市山田町 711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成21年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第2回)

2 会議の構成

委員	足立加代子	石油販売会社役員
	塩屋 節次	高山市青少年育成市民会議会長
	阪下 六代	弁護士
	中田 弘幸	農業(岐阜県指導農業士)
	山下 芳枝	農業経営アドバイザー、欠席
学校側	長瀬 信	校長
	小見山輝明	副校長(全日制)
	坂本 茂幸	副校長(定時制・通信制)
	原 勉	事務部長
	高橋 博美	教頭(全日制岡本校舎)
	田中 洋二	教頭(全日制岡本校舎)
	林 博康	教頭(全日制山田校舎)
	大澤 正孝	教頭(定時制)
	廣澤 正彦	教頭(通信制)
	田屋 雅樹	教諭(全日制山田校舎・教務主任、記録)

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成21年10月14日(水) 10:00~12:00
岐阜県立飛騨高山高等学校(山田校舎会議室)において、評議員4名と学校側10名が出席して開催した。会議の途中で、専門学科の実習の授業参観も行った。

5 会議の概要 (進行 林教頭)

会議 I 開会の挨拶(小見山副校長)
学校の近況報告(長瀬校長)
第1回会議の意見に対する回答(田中教頭)
外部評価の結果について(田中教頭、大澤教頭、廣澤教頭)

授業見学 山田校舎の3時限目

会議 II 授業見学の感想、学校への意見・要望等
会議のまとめ(長瀬校長)
閉会の挨拶(坂本副校長)

(1) 学校の近況報告

前回いただいた意見を生かして学校の改革を進めている。また、職員には常々「生徒が落ち着いているのは我々教師が手を入れているからであり、常に現状に甘んじず緊張感を持って職務を遂行することが大切である。」と話している。本日も、これらを踏まえてご意見をいただければ幸いである。前回以降の学校の様子を主なものを報告する。

- ① 10月22日から茨城県で開催される技能五輪全国大会のフラワー装飾部門に、県内の農業高校生として初めて園芸科学科3年生の女子生徒が参加する。会場の中央にあるのが練習で2日前に作った作品である。
- ② 先週、茨城県で開催された農業クラブ全国大会に7名の生徒が参加し、3名が農業鑑定競技の部で優秀賞を獲得した。
- ③ 新潟国体の少年女子ハンドボール競技に、岐阜県選抜12名のうち本校の部員11名が出場した。優勝は逃したがインターハイに続き5位入賞を果たした。

- ④様々な分野で地域と連携した教育活動を進めているが、商業研究部とコンピュータ部が、市内本町に空き店舗を利用した駄菓子店を開店し活動を始めた。
- ⑤先日の高校一日入学において、飛騨地区参加者の37%にあたる約560人の中学生が本校に参加した。今は、入りたい高校になりつつあると感じている。

(2) 第1回会議の意見に対する回答

- ①情報モラル(携帯電話)の指導について
4月に情報モラルについての統一ロングホームルーム、6月に生徒対象のICT講話を実施し、12月には職員向け研修会を計画し、指導の向上を期している。
- ②生徒の積極的授業姿勢の指導について
授業中の姿勢のみならず、家庭での宿題や予習・復習についての指導を推進することを全職員で確認し実践している。また、生徒による授業評価、考査の結果、外部評価等をもとに、わかりやすい授業を目指した授業研究を推進している。

(3) 外部評価の結果について

- ①全日制の結果分析
全般的に肯定評価が多く、生徒も保護者等も、ともに平均84%になった。生徒は昨年並み、保護者等は微増である。昨年肯定評価が低かった「災害時の対策マニュアルの周知」については改善が見られた。マニュアルの改訂と配布、育友会行事などでの説明が功を奏した。家庭との連携については若干肯定評価が低下した。今後具体策を考えたい。「この学校に入学して(させて)良かった」については生徒90%、保護者等96%と非常に高い。基本的に我々の教育が受け入れられていると考えている。
- ②定時制の結果分析
肯定意見の割合を見ると全体的に保護者等の評価は高く、生徒は厳しい評価をしている。この傾向は昨年度と同じだが、数値は若干改善している。保護者は、生徒が楽しんで学校へ行っていることに極めて高い評価をしている。生徒は、給食にやや厳しい評価をしながらも学校が楽しいことに対しては一番の高評価をしている。
- ③通信制の結果分析
生徒も保護者等も、ともに昨年度と大きな差異はなかった。生徒による肯定評価がほとんどの項目で8割を超え、92%の者が本校を選んで良かったと回答している。学習指導や教員への信頼感の高さを表していると考えられる。また、生徒の91%・保護者の97%が、地域にとって通信制が重要な存在であると答えている。さらに学習環境の整備を進めニーズに応じていきたい。生徒・保護者とも授業以外の学習機会への評価が他の項目に比べ低い。通信制のシステム上難しいが、多様な学習機会を提供する取組を検討していきたい。
- (意見1) 全日制において家庭との連携の評価が昨年度より若干低下したことについて、校舎間での違いはないのか。
(学校側) 本項目に限らずすべての項目について、アンケート結果の数値に校舎間の違いはほとんど見られない。あっても2~3%程度の違いである。
- (意見2) 家庭との連携については、学校からの連絡文書等の届き方についての評価を見ると、全日制では比較的低いものに対して定時制や通信制では高い。これは発出する情報量や機会の差も影響していると考えられる。アンケートの質問項目については3課程ごとに異なる質問をさらに工夫できると良いと思う。
- (意見3) いじめに対する指導や体罰の防止に関する項目の評価が比較的低いのが意外で不思議に思う。
(学校側) 肯定意見も低い、否定意見も少ない。しかし、1名でもいじめや体罰の被害生徒がいるのであれば問題であるので、学校としては結果を真摯に受け止め指導にあたりたい。
- (意見4) 全体的に、生徒が喜んで学校へ来ている姿が浮かんできて喜ばしい。学年が進むにつれこどもと地域社会との距離が遠くなる傾向にあるので、高校生の社会参加を促す指導を今後お願いしたい。
- (意見5) 予想以上に良い結果に感心している。学校統合すると聞いた時は、どのようになっていくのか多少の心配もしたが、統合によって魅力ある学校になったと思う。いじめや体罰については、学校側の説明を聞いて安心した。

(4) 授業見学（山田校舎の3限）

授業見学の内容

- ・園芸科学科 3年生「総合実習」（班別専攻実習＝草花専攻班、果樹専攻班）
- ・生物生産科 3年生「課題研究」（班別研究活動＝肉加工研究班、穀類加工専攻班）
- ・環境科学科 3年生「総合実習」（班別専攻実習＝森林整備専攻班、木材利用専攻班）

(5) 授業見学の感想および学校への要望・意見等

- (意見1) 全然知らないタイプの高校の様子を目の当たりにして感動した。金儲けはできても物づくりはできない若者が多いと言われる今の時代において、本校の生徒はすごく良いことを学んでいると感じた。
- (意見2) 生徒の技術の高さから、日頃の先生方の指導を垣間見た気がする。また、特別支援学校等の生徒との交流を通してのやさしさを体験する学習機会の様子を見て、素晴らしい教育であると思った。なお、就職環境が厳しい社会情勢であるが、本校の現状はどのような様子であるか。
- (意見3) 園芸科学科と生物生産科の特別支援学校等の生徒との交流の様子を見たが、迎え入れて交流する本校の生徒にとっても、心の教育に大変良い機会である。他の学科でも実践してはどうか。
- (学校側) 山田校舎の生徒の約3分の2は就職希望である。求人数が減ったので選択の余地は少ないものの希望者は受験できている。現在は、不幸にして第1志望先が不合格であった若干の者の指導を進めている。岡本校舎も約3分の1にあたる70名程の就職希望者全員が受験でき、同じく若干の不合格者が出た。進路指導部はもとより学年や学科の組織が連携して事後指導にあたっている。
- (意見4) 農業を中心とした学習活動は特色が出せて良いと思う。改めて生徒の技術や施設設備のすばらしさに感心した。また、開かれた学校の現状を見ることができ嬉しく思った。
- (学校側) 飛騨特別支援学校との交流学習は山田校舎の全学科で実施しており、本年度で27年目になる。本日は午後に環境科学科の、サツマイモの収穫を題材にした交流を予定している。岡本校舎でも保育園や施設等へ出かけて行うボランティア交流を行っている。

6 会議のまとめ

本日は熱心に協議いただき、貴重なご意見をいただいたことに対し感謝申し上げます。いただいたご意見に対して改めて回答することで本日のお礼に代えたい。

- ①進路特に就職指導に関しては、全日制の生徒の6割が就職し、その7割が地元就職、県内まで広げても8割であることを踏まえると、地元で活躍できる人材育成が本校の役割であると考えている。不況の影響で地元からの求人数が極端に減ったが、地域と連携しがんばっている生徒の様子をさらにPRしていくことに努めていきたい。
- ②山田校舎と飛騨特別支援学校との交流は30年近く継続しているが、学科や学級単位で行うこの取組以外にも、校外に出て行う様々な交流が両校舎の部活動、家庭クラブ活動等の単位で数多く行われている。保育園や子育てサークルや老人ホームなどで行っているボランティア活動もその一つである。このような取組が、200人というMSリーダーズの登録数（飛騨地区の全登録数の7～8割）にも反映していると思う。今後も積極的な交流を進めていきたい。
- ③外部評価の捉え方と活用には際しては、少数意見にどのように目を向け対処していくべきかのヒントを本日はいただいた。もう一度分析し直し、どのように学校改善を図ったかを第3回の学校評議員の会議で報告できればと考えている。また、本校について「知らない一面を見た。」というご意見から、一層学校開放を進めるべきという思いを強くした。今後も忌憚のないご意見をいただくことをお願いして会を閉じたい。

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 長瀬 信

学校住所 (岡本校舎) 高山市下岡本町 2000-30 電話 0577-32-5320
(山田校舎) 高山市山田町 711 電話 0577-33-1060

- 1 会議の名称** 平成21年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第3回)
- 2 会議の構成**
- | | | |
|-----|-------|---------------------|
| 委員 | 足立加代子 | 石油販売会社役員 |
| | 塩屋 節次 | 高山市青少年育成市民会議会長 |
| | 阪下 六代 | 弁護士 |
| | 中田 弘幸 | 農業(岐阜県指導農業士) |
| | 山下 芳枝 | 農業経営アドバイザー |
| 育友会 | 小井戸寿尚 | 全日制育友会長 |
| | 今村 彰宏 | 定時制育友会長 |
| 学校側 | 長瀬 信 | 校長 |
| | 小見山輝明 | 副校長(全日制) |
| | 坂本 茂幸 | 副校長(定時制・通信制) |
| | 原 勉 | 事務部長 |
| | 高橋 博美 | 教頭(全日制岡本校舎) |
| | 田中 洋二 | 教頭(全日制岡本校舎) |
| | 林 博康 | 教頭(全日制山田校舎) |
| | 大澤 正孝 | 教頭(定時制) |
| | 廣澤 正彦 | 教頭(通信制) |
| | 田屋 雅樹 | 教諭(全日制山田校舎・教務主任、記録) |
- 3 会議の目的** 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催** 平成22年1月25日(月) 10:00~12:00
岐阜県立飛騨高山高等学校(山田校舎会議室)において、評議員5名、全日制と定時制の各育友会長及び学校側10名の計17名が出席して開催した。会議の途中で、代表生徒13名との意見交流会も行った。
- 5 会議の概要** (進行 林教頭)
開会のことば(小見山副校長)
学校長あいさつ(長瀬校長)
生徒の発表及び質疑応答
今年度の学校状況の説明
学校への意見・要望等
会議のまとめ(長瀬校長)
閉会のことば(坂本副校長)

(1) 学校長あいさつ

前回の会議以降、いただいた貴重な意見の反映に努めてきた。本日も忌憚のない意見をお願いしたい。今回は学校関係者評価委員会も兼ねているため全日制・定時制の育友会長にも出席いただいたが、保護者の代表としての立場からの意見もいただきたい。

今年度の学校の状況説明にあたっては、前回のご意見を踏まえ、マイナス面の課題も探ってみたので、後ほど報告したい。以下、近況の一部を紹介して挨拶に代えたい。

- ① 常日頃、2つの校舎と多様な課程や学科をもつという課題を「強み」にする学校運営に努めているが、来る1月29日に開催する学習成果発表会はその最たるものととらえている。是非参観いただき意見をいただければ幸いである。
- ② 宿働(すくな)カボチャアイスクリームの商品化、シコクビエを用いたうどんやクッキーの製造に代表されるように、地域や産業界と連携した取組が増えている。また、この夏には全国チェーンのコンビニエンスストアで、本校の生徒が提案した商品が販売される予定である。

(2) 生徒の発表及び質疑応答

- ①岡本校舎生徒会長
球技大会や文化祭などの行事運営のほか、制服の着こなしや挨拶の励行について、両校舎で連携して呼びかけを行っている。今後は地域でのボランティア活動にも取り組んでいきたい。
- ②山田校舎生徒会長
山田校舎でも、朝の挨拶活動や制服の着こなしの呼びかけを継続して行ってきた。学校祭「ひのう祭」では、同窓会や育友会の皆さんの協力もいただき、生徒全員の力をまとめて、地域に広く農業学習を紹介できた。今年度は、年末の共同募金活動や特別養護老人ホームへの訪問交流も行った。
- ③ハンドボール部主将
10年連続でインターハイ出場を果たしベスト8の成績を残せた。国体も2年連続5位入賞を果たせた。厳しい練習を積むこと、仲間を大切にすること、学習面やマナーも重視することで、技術面だけでなく人間的にも成長したいと考えている。個人的には、ユース世界選手権や日中韓交流にも参加でき、いろいろなことを吸収できた。全国制覇の目標は後輩たちに託したい。
- ④太鼓部主将
自分が32代目の主将となる伝統を持ち、また地区では唯一、県内でも5校しかない珍しい部である。県大会では2位であるが、全国的にもレベルの高い岐阜県の代表として全国大会に出場することを目指している。地域はもとより県内各地でさまざまな発表の機会を持っている。多くの人に観ていただき評価してもらうことが、活動の支えになっている。
- ⑤書道部部長
個人作品と共同作品に取り組んでいる。共同作品は県で最優秀に選ばれ思い出に残る作品になった。指導していただいた顧問の先生や県の強化指定部に選んでいただくなど支援していただいた皆さんに感謝したい。
- ⑥MSリーダーズ代表
生徒の自発的なボランティア活動を行っている。校内や学校周辺の美化活動を中心に行っている。宮川河川敷の清掃活動も行った。私たちの活動に多くの市民から声をかけてくださり励みになっている。さらに活動の輪を広げていきたい。この活動に参加して、個人的には自分自身から動く習慣が身についた。
- ⑦普通科代表
3コース制であるが、私は看護医療進学コースで看護師を目指している。学習はもとより生徒会活動やMSリーダーズ活動にも励み、3年間で充実していた。その甲斐あって県立看護大学に合格できた。
- ⑧園芸科学科代表
一番の思い出は「ひのう祭」である。学科展やクラス発表の成功はうれしかった。流通サービスコースで販売士2級などの検定に合格したほか、地域特産のトマトの消費向上を目指すプロジェクトに取り組んできた。地域とのつながりを大切にしているJAへの就職が内定しているので、本校で学んだことを生かしていきたい。
- ⑨生物生産科代表
動物科学コースで、家業の養豚業を継ぐことを目指している。厳しい社会情勢でやっていくには、より質の高い豚肉提供が大切であると考え、ドングリの給与効果確認など肉質改善のプロジェクトに取り組んできた。今後は、日本獣医生命科学大学に進み、海外での研修の後、日本一おいしい豚肉生産で国民に貢献したい。
- ⑩環境科学科代表
幼い頃から興味があった森林に関わる仕事がしたくてこの学科に入学した。国家公務員である森林官になることを目指して、日頃の学習・実習はもちろん農業クラブ活動などに前向きに取り組んできた。その結果、農業鑑定競技で県の最優秀、全国大会2年連続優秀賞を獲得することができた。目標の中部森林管理局に採用内定をいただいているが、様々な有益な機能を持つ森林の大切さのピーアールに努めていきたい。
- ⑪情報処理科代表
私の学科は資格取得に力を入れており、全国商業高等学校協会が行う検定において、全員が1級3種目以上に合格することを目指している。難易度の高いシステムアドミニストレーターやITパスポートにも多くの者が合格した。また、文武両道を目指し、学科の生徒全員が部活動に参加している。
- ⑫ビジネス科代表
商業に関することを広く学び、多くの資格を取ることで進路実現につなげている。商店街のディ

スプレイコンテストへの参加、乳業会社との宿働カボチャアイスクリーム開発、空き店舗を利用した商業実践など地域との交流も行っている。部活動と学習の両立にも心がけた。周囲への感謝の気持ちを忘れず、社会でも頑張っていきたい。

⑬生活文化科代表

食物、被服、介護を学ぶ学科であるが、私は介護福祉コースを選んで、今週末に行われる国家試験の合格を目指している。2年生と3年生の2年間、それぞれ10日間の施設実習で実践的な学習を行ったが、日頃学校で学んでいることの意義や生かし方を肌で感じ、ますます意欲が高まった。

- (意見1) 文武両面での活躍、積極的な奉仕活動の様子を大変心強く思う。MSリーダーズは市の青少年健全育成活動にも参加してくれているが、市民の啓発に一役買っている。
- (意見2) 今の高校生が、自分の意見をしっかり持って頑張っている様子がよく分かった。その姿勢を後輩にも伝えていって欲しい。
- (意見3) 自らの頃と比較して、今の高校生は多方面で活躍していることを改めて知った。その陰には周囲の理解があったことを忘れず、協調性を大事にして今の姿勢を続けて欲しい。
- (意見4) ハンドボールに続く部を育成するために、学校は良い指導者の招聘に努め、生徒の素晴らしい素質を伸ばして欲しい。
- (意見5) どの学科の生徒も高いレベルの学習を行っていると感じた。いつまでも今の姿勢を持ち続けて欲しい。また、2校舎の生徒が互いに理解し合って生徒会活動や部活動を行っている様子がよく分かった。ハンドボール部などの活躍は全校生徒の励みになるし、当の部員たちにとっても大きな心身の成長をもたらすと思う。
- (意見6) どの生徒も高度な教養と正しい考えを身に付けていると確信をもった。3年間の努力に賞賛を送りたい。
- (意見7) 特に山田校舎の生徒たちが行っている活動は、私との接点も多いので、今後も互いに協力し合って活動していきたい。
- (意見8) 部活動については、施設設備面など活動環境の充実も含めて、活動を支援していきたい。今の活動ぶりを伝統として後輩に引き継いでいって欲しい。
- (意見9) 「教育とは夢を育てることである」と言われる。夢は困難を克服する糧になる。本校で培った夢を大切にそれぞれ頑張っていきたい。応援している。

(3) 今年度の学校状況の説明

学校長及び各課程の教頭より、生徒の動向、問題行動及び進路状況について説明を行った。

(4) 学校への意見・要望等

- (意見1) 代表生徒の大変しっかりした立ち居振る舞いに感心した。評議員を引き受けたことによって、自分の知らないタイプの高校の様子がよく分かった。特に「ひのう祭」で想像を遙かに上回る多くの来客を相手に活躍する生徒の姿は感動を覚えた。教室の学習だけでなく、様々な活動を行っていることが、社会に出て必要な力を育てていると感じた。
- (意見2) 本校の教育は本当に素晴らしいと思う。このまま継続発展させて欲しい。また、地域社会に貢献・奉仕することを高校生のうちに体験することは、望ましい人間形成にとっても大変意義深いことであると思う。
- (意見3) 生徒会の活動は、具体的でわかりやすいスローガンを掲げているので活動しやすく、そのことが学校全体を良い方向へ導いていると思う。また、生徒の動向の報告を受けて、学校の抱える問題が起因となったり学費の問題による転退学が無いとわかり安心した。問題行動については思ったより少ないと感じた。生徒指導がうまくいっていると思った。
- (意見4) 生徒や先生方の努力で学校がうまくいっているが、その様子をもっと保護者や地域に伝えていってほしい。
- (意見5) 評議員になったことで生徒たちと接する様々な機会をいただいて、生徒から学ぶことが多かった。しっかりした考えと夢を持った生徒の様子を見て私自身にとって有益であった。
- (意見6) 役員以外の一般保護者と生徒と交流する育友会行事は、「ひのう祭」や授業参観がある。今後は、生徒が行っている環境整備活動に保護者も参画するようなことも検討してみたい。
- (意見7) 定時制は、個々の生徒の事情に応じた丁寧な指導とこまめな情報提供を行っていただいている。保護者として地域に定時制の設置意義を発信していくことにも努めたい。
- (意見8) 電子メールによる保護者への情報配信についても検討して欲しい。
- (学校側) すべての部活動に専門指導者を配置することは難しいが、本校の職員は専門であるか否かを問わず、皆献身的に良く指導してくれている。

退学をするということは、すべての生徒にとってマイナスであるとは考えていない。個々の生徒にとって何が最良であるか、保護者と十分相談しながら進めている。また、退学した生徒とは「本校の生徒であった」という良好な関係を継続するよう確認し合っている。問題行動については、表面化しない事案もあることを十分認識して生徒の指導にあたっている。

地域や保護者に対する学校の情報提供には、今後も精力的に取り組みたい。特に、直接生徒の様子を見ていただく機会として秋の授業公開週間があるので、その広報にも努めたい。また、生徒と保護者が共同で取り組んだ行事の一例として寮の大掃除がある。夏と冬に実施したところ8～9割の保護者の参加があり、生徒と保護者と教員の三者が微笑ましい雰囲気の中で活動できた。

6 会議のまとめ

本校は「生徒が自慢の学校」である。ほとんどの生徒は、本日出席した生徒たちと同じように自分の考えをしっかりとって、それぞれの学習活動に取り組んでくれている。私たち教職員は、そのような生徒たちを地域で活躍できる人材に育てていきたい。そして、生徒にとってますます自信と誇りを持てる学校にしていきたいと考えている。

来年度は、大勢の中で見落としがちなところにスポットを当て、その解決を図ることを課題にしていきたい。また、地域の方々にとってわかりにくい部分がないか検証し、さらに積極的な学校PRに努めていきたい。

本日は熱心に協議いただき、貴重なご意見をいただいたことに対し感謝申し上げます。今後も忌憚のないご意見をいただくことをお願いして会を閉じたい。